

施策	担当部	KPI		総合評価		今後の方向性	最終評価 指標	意見等
		基準値	目標値	指標	説明			
<b>[基本目標1] 安心なくらしを守り、住み続けられる地域をつくる</b>								
(1) 公共施設の総合的な マネジメントとコンパクトさを活かした暮らし やすいまちづくり	政策 総務部	公共施設の 総延床面積		1	公共施設再配置・町有地有効活用実施計画策定方針を策定し、次年度に策定する実施計画により計画的に事業を推進していく。また、二宮町公共施設等総合管理計画に基づき、公共施設だけでなくインフラについても計画的に事業を推進していく。なお、東大果樹園跡地は、シンボル事業に選定し、具体的な活用方法は町民ワークショップなども活用して検討を行う。	公共施設再配置・町有地有効活用については、策定方針に基づき、今後、10年間に実施していく具体的な内容を実施計画としてとりまとめていく。その際には、様々な角度からの視点で検討を行う必要があるため、町民ワークショップや町民意見募集などを実施していく。	1	安心なくらしを守り、住み続けられる地域を実現するために、公共施設の再配置・町有地の有効活用は重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、KPIの進捗としては結果に表れていないものの、具体的な事業は概ね予定通り進んでおり、目標達成に向け着実に推進していると考えられる。 今後さらに施策を推進するために、単なる施設数や面積の削減ではなく、町民が安全で安心して利用できる施設やサービスの提供という観点から、町民参画や積極的な情報共有により町民の理解や協力を得ながら、将来における施設の適正配置や維持・管理、町民サービスのあり方等を踏まえたまちづくりの実現に向け、検討を行う。
		67,824㎡	67,506㎡以下					
(2) 誰もが健康でいきいきと暮らせる環境づくり	健康 福祉部	健康寿命 (国保データベース)		2	地域支援事業の実施および計画策定に向け、検討準備を行ってきた。また、福祉サービスについても妥当性、有効性などを考慮し29年度に向け見直し検討を行い、必要なサービスや事業は継続、改善に向け取り組んでいる。 病気の早期発見、早期治療や重症化を防ぐためにも、がん検診・特定健診は有効であることから、未受診者への受診勧奨に力を入れて取り組む。	地域の通いの場を中心に介護予防だけでなく、地域の困りごとを解決できる(生活支援)よう、地域の理解を得る。 お互いさま推進協議会(町域の協議体)と一色小学校区福祉協議会(地域の協議体)との連携を図り、地域共生社会へ向けての動きを明らかにし、他の小学校区でも2層の協議体の必要性を理解してもらう。 在宅医療介護連携事業の推進に努める。 未病センターを設置し、町民の健康や運動に関する意識の向上に努める。 併せて、県、民間事業者、県内自治体が連携して実施している未病サミットに参加し、イベントなどを通じて普及啓発を図ることで、町民一人ひとりの主体的な健康の維持・増進や健康意識の改革を図る。	2	安心なくらしを守り、住み続けられる地域を実現するために、誰もが地域の中でいきいきと暮らせる環境づくりは重要な施策であることから各種取り組みを推進したが、KPIの進捗としてはいずれも十分とは言えず、取り組みの強化や事業の見直しを図る必要がある。 今後さらに施策を推進するために、関係機関や町民との連携を深め、地域資源や特性を生かした支援のネットワークの充実を図る。併せて、健康寿命の延伸に向け、健康増進への意識や運動継続への意欲の向上を図るとともに、子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に健康づくりに取り組むことができる環境の充実を図る。
		男性:65.9歳 女性:67.1歳	男性:67.0歳 女性:68.0歳					
		運動習慣がある人の割合						
		39.5%	50.0%以上					
(3) 地域コミュニティの醸成支援	政策 総務部	地域コミュニティに対する 町民の評価		2	地域コミュニティの醸成支援のため、プロジェクトは予定通り進行しているが、一つ一つの実施計画事業については、一色小学校区地域再生協議会の自走に向けた支援、地域活動支援交付金の見直し、空き家対策の検討など、さらなる推進を図るため、一部事業を改善する必要がある。	一色小学校区地域再生協議会については自走することを共通の目標に持ち事業の絞り込みを行う。 地域活動支援交付金については、全体的な仕組みを見直す。 空き家の利活用と並行して、空き家の適正管理の取り組みについて計画に位置付けていく。	2	安心なくらしを守り、住み続けられる地域を実現するために、地域コミュニティの醸成支援は重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、KPIとしては若干の進捗が見られたものの、施策による効果の検証は短期間で判断しがたいため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、地域と町が地域コミュニティの現状と課題について共通の認識を持った上で、地域の担い手として、町民をはじめ、多様な主体が行動を起こすための機運醸成を図る。併せて、地域活動が活発に、そして自立した活動が展開できるよう、地域活動支援交付金のあり方を見直し、地域コミュニティの活性化に繋げていく。
		0.19	0.50以上					
(4) 災害や犯罪に備える 地域づくり	政策 総務部	地区防災マニュアルの 策定		1	地区防災マニュアル策定を含め、交通安全、防災及び防犯等について、地域、行政及び関係団体が連携し、町内全域での安全安心なまちづくりを推進していく体制づくりが図られている。 行政をはじめ、地域の安全力向上に必要な関係団体相互の連携強化を図るため、二宮町安全安心まちづくり推進協議会の効率的な運営を継続する必要がある。	現在の連携体制及び関連活動の維持強化を図りつつ、地区防災マニュアル策定等による全町的な防災力向上を推進する。 併せて、関係機関との緊密な連携により、町内全域で安全安心なまちづくりを推進する体制の強化を図るとともに、地域の安全力の向上のため、見守り活動等を効率的、かつ、継続的に実施する。	1	安心なくらしを守り、住み続けられる地域を実現するために、災害や犯罪に備える地域づくりは重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、KPIの進捗としては実績に繋がらなかった指標があるものの、具体的な事業は概ね予定通り進んでおり、目標達成に向け着実に推進している。 今後さらに施策を推進するために、持続性のある防災教育、普及啓発のあり方を考慮した上で、迅速かつ適切な対応ができる地域社会の構築のため、地域の実情に即したマニュアルの作成及び地域との連携による防災訓練の実施等により、地域、行政及び関係団体が連携し、町全体の自主的な防災・防犯意識の向上を図る。
		-	20地区					
		防災・減災まちづくりに 対する町民の評価						
		0.42	0.50以上					

施策	担当部	KPI		総合評価		今後の方向性	最終評価	意見等
		基準値	目標値	指標	説明		指標	
<b>[基本目標2] 二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、新しい人の流れをつくる</b>								
(1) 「にのみやLife」の提案と発信	政策総務部 / 健康福祉部	「にのみやLife」PRホームページの閲覧数		2	二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し新しい人の流れをつくるための「にのみやLife」の提案と発信は予定通り進行しており、新たな移住者も増えている一方で、町が情報提供する空き家の利活用には結びついていない。同居・近居制度をはじめとした住宅に関する各種助成制度について、引き続き、周知を図り、利用の促進に努めるとともに、趣旨や目的、利用実態等の現状を見直し、利用者にとって、分かりやすく、使いやすい内容に改善することについて検討する。また、空き家施策のあり方について、方向性を示す必要がある。	産業振興課・観光協会との連携を図りながら「にのみやLOVERS～まちの魅力伝え隊」の自由な発想を活かしたプロモーションを展開するとともに、神奈川県住宅供給公社や神奈川大学との連携やイベントなどを通じたお試し移住の可能性について検討を進める。住宅に関する各種助成制度について統廃合を進めつつ、空き家については、適正管理や空き家にならないための方策を計画に位置付けるとともに、町民意識の向上を目的とした啓発を実施する。	2	二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、新しい人の流れをつくるために、「にのみやLife」を確立し、提案・発信することは重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、KPIの進捗については概ね順調であったものの、施策による効果の検証は短期間で判断しがたいため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、各種補助事業をはじめ、移住・定住のための諸施策を利用者の視点から見直すとともに、それぞれの施策を有機的に結びつけ、効果的、効率的に展開する。併せて、「にのみやLife」シティブロモーション戦略に基づき、適切な情報発信を続けるとともに、町民や関係団体等の参加と協力を得ることで、町のアイデンティティを高め、それを町の認知度やイメージ向上に繋げる好循環を創出する。
		14,451	基準値の2倍					
		空き家バンクに登録された空き家(空き地を含む)の利活用件数						
		-	5件					
(2) 二宮を知り、二宮に触れ、二宮を体験できる環境づくり	教育部	生涯学習センター・ラディアンの施設稼働率		2	施設稼働率や利用者の増加に向け、限られた資源を有効に活用しながら、利用者のニーズに応えるべく、創意工夫を重ねながら、取り組みを推進する必要がある。	費用対効果を考慮した上で、利用者のニーズに応えるイベントの実施等により、施設利用者の維持・増加を図るとともに、情報発信を工夫することで、若年層を主体とした新たな利用者の開拓を図る。 また、SNSにより、図書館事業のPRを継続する。	2	二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、新しい人の流れをつくるために、町の自然や歴史・文化等に触れられ、体験できる機会づくりは重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、具体的な事業は概ね予定通り進んでいるものの、KPIの進捗については基準値を下回った指標があり、十分とは言えず、取り組みの強化や事業の見直しが必要である。 今後さらに施策を推進するために、文化団体等と連携し、町民が地域の歴史や文化に触れ、学ぶ機会を創出するとともに、学んだ人たちがその成果を地域に還元できる仕組みづくりを検討する。併せて、公共施設マネジメントを踏まえた文化施設の適切な維持管理とともに、その使われ方の質にも目を向け、町全体の文化力の向上と町民主体の文化活動の促進を図る。
		54.0%	60.0%以上					
		図書館の来館者数						
		217,925人	240,000人					
		文化・芸術活動に対する評価						
0.04	0.50以上							
(3) 特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成	教育部	将来の夢や目標を持っていると回答した児童生徒の割合		1	これまでの取り組みにより、一定の理解を得てきたが、学校と保護者、地域が力を合わせて学校運営に取り組む環境づくりを目指し、さらなる理解と協力を得るため、引き続き、分かりやすく、丁寧な対応に努める。	コミュニティ・スクールについては、学校運営協議会の設立に向けた体制の構築とともに、啓発や情報発信等に工夫をし、地域の参加を広げる。また、モデル校として先行導入を目指している一色小学校に続き、他校においても導入に向けた準備を進める。 小中一貫教育については、コミュニティ・スクールとの有機的な連携も見据え、今後の学校のあり方も含めた研究を継続する。	1	二宮の強みを活かした魅力あるくらしを提案し、新しい人の流れをつくるために、特色ある学校教育による子どもたちの生きる力の育成は重要な施策であることから、各種取り組みを推進したところ、KPIの進捗については概ね順調であるものの、施策による効果の検証は短期間で判断しがたいため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、地域の資源を最大限活かした教育活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携を図り、一体となって教育活動に取り組む。併せて、将来を見据えた学校教育・学校施設のあり方については、学校、家庭そして地域が互いの役割を認識し、子どもたちの教育に対する共通の認識と目標の下、検討を進める。
		57.1%	70.0%以上					
		これからも運動を続けたいと思うと回答した児童生徒の割合						
		60.1%	70.0%以上					

施策	担当部	KPI		総合評価		今後の方向性	最終評価 指標	意見等
		基準値	目標値	指標	説明			
<b>[基本目標3] 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる</b>								
(1) 子育て世代を見守り、支えるための妊娠期、出産期、育児期における切れ目のない支援と環境づくり	健康福祉部	子育て環境に対する町民の評価		2	妊娠期から子育て期にわたるまでの様々なニーズに対して、総合的な相談ができる体制の整備により、子育て支援体制のさらなる強化が必要である。また、妊娠前からアプローチし、正しい知識や早い段階でのライフプランの設計の重要性等を知ってもらうことを通じて、出生率そのものの上昇を図る必要がある。	平成29年度より子育て世代包括支援センターを開設し、保健師等の専門職による妊娠、出産から育児期を通じた切れ目のない支援を目指す。	2	若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくるためには、妊娠、出産から育児期を通じた切れ目のない支援は重要な施策であることから、各種取り組みを推進したところ、KPIについては順調に進捗したものの、施策による効果の検証は短期間で判断しがたいため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、多様化する保育ニーズを反映しつつ、地域の実情に合った特色ある保育サービスの提供に努めるとともに、保育人材の確保を進め、短期的な問題解決だけでなく、中長期的な視点に立って、安心して子育てできる体制を構築していく。併せて、子どもは、次代を担う社会の一員であることから、家庭はもとより、地域、企業、行政等が連携・協力を深め、子育て支援体制の充実に努める。
		0.18	0.50以上					
		年少人口割合						
		10.7%	10.2%以上					
		待機児童数						
10人	0人							
(2) 子育てと仕事の両立の推進	政策総務部	女性の就業率(25～44歳)		2	子育て世代のワーク・ライフ・バランス実現プロジェクトは順調に進行しているが、重要業績評価指標の達成には繋がっていないため、各実施計画事業について、プロジェクトが目指す方向性を意識しながら事業展開を図る必要がある。	ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、その必要性やメリットを理解した上で、各種事業を展開するとともに、二宮町次世代育成支援対策及び女性活躍推進法に関する特定事業主行動計画に基づき、まずは、職場内において仕事と子育てが両立できる職場環境づくりを進め、対外的な発信へと繋げていく。また、各種講座・講演会を開催し、ワーク・ライフ・バランス実現のための普及啓発を図る。	2	若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくるために、子育てと仕事の両立を推進することは重要な施策であることから各種取り組みを推進したところ、具体的な事業は概ね予定通り進んでいるものの、KPIの進捗については基準値を下回った指標もあることから、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、社会全体の男女共同参画意識の底上げを図るため、その必要性をあらゆる世代が共感できるよう、引き続き、啓発活動を展開する。併せて、これまでの取り組みにより高まったワーク・ライフ・バランスに対する関心を具体的な行動の変化に結びつけるため、事業者としての二宮町は、職員一人ひとりが意欲と能力を発揮できる人材育成と職場環境づくりをより一層進め、内外の取り組みを牽引する。
		65.4%	70.3%以上					
		男性の家事・育児時間						
		1時間21分	2時間以上					
		役場男性職員の育児休業取得割合						
0%	10%							

施策	担当部	KPI		総合評価		今後の方向性	最終評価 指標	意見等
		基準値	目標値	指標	説明			
<b>[基本目標4] 二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる</b>								
(1) 地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくり	都市部	町内起業・開業件数 (商工会加入件数)		2	商工会主催の創業塾において、定員を超える参加者がある等、町内での起業・開業機運が高まっていることから、現状の支援策を継続するとともに、起業・開業希望者のニーズを踏まえた支援の強化を検討する。	町内における起業・開業機運の高まりを受け、早急に起業・開業の支援体制を構築する必要があるため、創業支援事業計画を策定し、国の認定を目指す。併せて、町内における起業・開業の実態を把握し、課題やニーズに対応する効果的・効率的な支援を推進する。	2	二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくるために、地域にしごとを生み出し、資金を循環させるしくみづくりは重要な施策であることから、各種取り組みを推進したところ、KPIの進捗については順調であるものの、施策による効果の検証は短期間で判断しがたいため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、社会経済情勢の変化やニーズを踏まえた上で、商工会をはじめとした関係機関と連携し、起業に関するさまざまな情報やノウハウの提供等により、起業を促進する体制の充実に努める。併せて、地域の資源や特性を活かした新たな産業の創出や空き家・空き店舗のマッチング支援等、新たなビジネスを生み、育てる取り組みを推進する。
		-	12件以上					
(2) 町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討	都市部	エネルギー・温暖化対策に関する計画		3	実行計画(区域施策編)の策定に際しては、区域の温室効果ガスの排出量の現況推計や将来推計を算出する必要があり、これには相当の時間を要するため、現状では策定することは難しい。そのため、まずは、町民の温暖化対策の意識付けを行うための基盤づくりを優先的に行っていることから、基本目標の達成に向けて、施策全体を見直す必要がある。	「COOLCHOICE(賢い選択)」の賛同者拡大による温暖化防止に関する機運の向上を図る。 地球温暖化対策検討委員会の検討結果を踏まえ、民間事業者による再生可能エネルギー事業の導入促進に向けた支援等について、温暖化対策事業化実施研究会で検討する。	3 ・ 5	二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくるためには、町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討は重要な施策であることから、各種取り組みを推進したところ、実行計画(区域施策編)を策定するためには、町民意識の向上が優先すべき事項であるとのことから、基本目標の達成に向け、施策全体を見直し、それに応じたKPIを設定する必要がある。 今後さらに施策を推進するために、国や県のエネルギー政策や産業政策の今後の動向を注視しながら、本町の実情を踏まえ、町民団体や民間事業者が実施する再生可能エネルギー事業に対する支援の手法について検討を進めるとともに、協働して推進するための基盤づくりを行う。
		-	策定					
(3) 身近な地域で働く希望を叶えるための雇用創出	都市部	二宮町における従業者数		2	平塚ハローワークに確認(平成29年2月)したところ、町内の約60事業所が求人募集を行っており、約150人の町民が求職者情報を登録しているが、企業側と求職者側とのズレが生じているため、原因の分析等が必要である。 平成28年度は、複数の就農相談を受けたが、新規農業参入には至らなかったため、更に農業参入しやすい環境づくりのサポート等を行う必要がある。 特産物の普及としては、オリーブの販売や加工方法等を確立する必要がある。	今後においても法律等の動向を注視するとともに、ハローワーク等と連携を図り、雇用の促進を図っていく。 農業については、遊休・荒廃農地の解消と新規農業参入者の増加や利用集積の促進を図る。 また、特産物の普及としては、オリーブの販売や加工方法等の確立を図る。	2	二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくるためには、身近な地域で働く希望を叶えるための雇用の創出は重要な施策であることから、各種取り組みを推進したところ、具体的な事業は概ね予定通り進んでいるものの、KPIの進捗については実績の把握が困難な指標や実績に繋がらなかった指標があるため、引き続き、着実な取り組みの推進が必要である。 今後さらに施策を推進するために、商工会や商店連合協働組合、ハローワーク等と連携し、求職者のニーズと企業ニーズのマッチングを促進し、経営と雇用の両面から事業者を支援することで、雇用の維持・促進を図る。併せて、農業については、国の政策が大きな転換点を迎えていることから、情報収集に努めるとともに、農業者や関係機関との連携により、農業の持続的発展と加工等による高付加価値化に向けた支援を継続する。
		5,568人	5,678人以上					
		農業参入 (法人・個人)数						
		2件	2件(人)以上増加					